

	<p>日本プライマリ・ケア連合学会 中国ブロック支部</p>		<p>発行人:田妻 進 〒734-8551 広島県広島市南区霞 1-2-3 広島大学病院 総合内科・総合診療科 Tel&amp;Fax:081-82-257-5461</p>
-----------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------

● m-HANDS-FDF 2018 第3回の報告書

中国ブロックでの指導医講養成の報告

松坂内科医院 松坂英樹

岡山家庭医療センター奈義ファミリークリニック 松下明

【m-HANDS-FDF】(modified - Home and Away Nine DayS - Faculty Development Fellowship)

JPCA-ML などで募集して中国地方の指導医6名が全5回のコースに参加されています。6名はそれぞれ3人ずつのチームを作り、模擬ティーチングなど協同して行ってもらいます。以下に全体の概要と実際参加された指導医からの報告の一部を掲載しますのでご一読ください。2019年度も同じような枠組みを予定しています、ご興味のある方はご相談下さい。

---

<目的>

中国ブロックの指導医養成

<対象>

- ・中国ブロックに所属しており、家庭医療後期研修を終了した医師
- ・中国ブロックの家庭医療後期研修に関わる指導医

**Core Competence : Adult Educator(成人学習支援者)**

学習者と向き合い、その学びに気を配り、学びの場をサポートできる

教育者の役割と限界を知り、学習者と協同的に学び、生涯学習者を育てる姿勢で関わる

学習者の学びを促進するための理論と技術を適切に用いることができる

---

m-HANDS-FDF 2018 第3回の報告書

1 日目

・**模擬ティーチング(実際に学習者を集めて教育計画の実施・振り返り)**

チームに分かれ、知識、技術、態度の各領域に対しての模擬ティーチングを行った。今回の対象は学生であった。態度領域のテーマとして、ディアドクターの予告編を見てもらい、医師のプロフェッショナリズムに関して小グループで話し合う形式をとってもらった。事前計画書の内容としては良かったが、参加者からのカリキュラム自体の評価がなかったこと、実際に話す内容としての導入には別の題材が良かったのではないかという意見をもらった。

## ・交渉術

「ハーバード流交渉術」を読んだ上でのワークであった。ワークを通じて ZOPA (交渉が妥結する可能性のある条件範囲) や BATNA (交渉が決裂した場合の最も望ましい代替案) を考え、臨機応変に調整をしながら交渉を行うことを学んだ。ハード・ソフトネゴシエーターという考え方も学んだ。次に実践編として 2 次医療機関での総合診療プログラムの立ち上げの会議のロールプレイをした。事前に仲間で方針を考え、ZOPA を考えた上で、Win-Win になるような条件を探しながら妥結点を見出す実習を行った。終了後、日常の診察を初め、管理などでは交渉が欠かせない。ぜひ ZOPA や BATNA を意識しながら感情的にならず交渉を行っていかうと考えを新たにした。

## ・私の主張リターンズ

私の主張リターンズでは、各フェローが仕事以外のお勧めのこと、ものを持ち時間 30 秒でプレゼンテーションしました。30 秒はあっという間でしたが、写真やグラフで視覚的、直感的に受け取りやすい形で情報提供する、本当に大切なことだけ簡潔に述べる、など短時間でも工夫次第で効果的に伝える方法があると学びました。

## 2 日目

### ・指導のビデオレビュー

普段行っている自分の指導について、実際に指導している風景をビデオで撮影しフィードバックをいただきました。自分が指導医している風景を実際に見たり評価してもらうことはこれまでなく、改めて客観的に自分の指導風景をみることで、自分では気づかない癖や改善点などがみつけることができました。フィードバックは受けてのものであるという原則がありますが、よりよい指導をするためには指導医側も定期的に自分の指導を振り返る必要があると思いました。

### ・カリキュラム評価

見様見真似ではあるが、カリキュラム評価というものを体験した。実用的なレベルには到底達しておらず Taxonomy の 1、知識、2、理解のレベルでしょうか。

藤原先生に FB に挙げていただいた文献を読んでいくと、Kirk Patrick のカリキュラム評価モデルをみるとレベルの最上位の患者の利益とある。まあ、最終的にはそこがプログラムやカリキュラムを評価して改善させる最終目的だが評価が難しい。実際文献にも妥当性、信頼性が高く実現可能な評価ツールを使いなさいとある。

個人的な目標としては、評価ツールのアンケート、インタビュー、試験、視察訪問などの各ツールの長所、短所、コスト、実現可能性などを頭に入れてよりよいカリキュラム評価ができるようになりたい。

### ・ポートフォリオ教育

ポートフォリオとはそもそも何か？ポートフォリオとレポートの違いは何か？を確認した後、学習者でそれぞれポートフォリオ指導に関する経験を共有した。どう書き始めさせるか？ポートフォリオとは何か、どう伝えるか、ポートフォリオにどのような記載を求めるか、もやもやしたこと・陰性感情などの程よい記載加減は？などといった話題が挙がった。ポートフォリオ指導でよくあることは研修施設が異なる学習者同士でも共感できる内容のものが多かったが、いかに日々の診療を省察し、1つ1つの経験を昇華できているかが大事であると思った。

(今後の予定)

第4回 in 岡山 1月19日(土) - 20日(日)

第5回 in 広島 3月10日(日)

見学も可能ですので興味がありましたら、ぜひご連絡ください。

質問等ありましたら、[hdk@matsuzaka@gmail.com](mailto:hdk@matsuzaka@gmail.com) までお問い合わせください。

#### 集合写真



当日の写真